

10年間にわたり「なぜわが子が学校で最期を迎えたのか」の答えを探し続けてきた家族の記録映画から、「学校が子どもの命の最後の場所になってはならない」との裁判官の言葉を共有し、これからの社会や学校教育のあり方についてみんなで考えます。



2024年
10/27 日
10:00~13:00

参加無料 要申込
先着順

生きる

大川小学校 津波裁判を闘った人たち

「なぜわが子が学校で最期を迎えたのか」10年間にわたり、その答えを探して撮影し続けてきた親たちの記録

小さいのちが遺した
伝えなくてはいけないこと。
忘れてはいけないこと。

2023年 第78回
毎日映画コンクール
ドキュメンタリー映画賞
受賞!

監督: 寺田和弘 | プロデューサー: 松本裕子 | 協力: 大川小学校児童津波被災遺族原告団 | 吉岡和弘 | 齋藤雅弘 | 主題歌: 「駆けて来てよ」(歌: 廣瀬 奏) | 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会 | 後援: 宮城県 | 製作: 株式会社ハコネットワーク | 配給: きろくびと | ©2022年 / 日本 / 16.9 / 124分 | ©2022 PAO NETWORK INC. | 2022年文部科学省認定作品 | 東京都推奨映画 - (公) | ikiru-okawafil.com

©2022 PAO NETWORK INC.

映画『「生きる」大川小学校津波裁判を闘った人たち』を忘れない

10:00~12:20 挨拶、解説、映画上映
12:20~12:30 休憩
12:30~13:00 オンライン講演、挨拶

吉岡 和弘 弁護士 (本作出演)

【講師プロフィール】

1947年北海道生まれ。弁護士(仙台弁護士会所属)。サラ金・クレジット被害、豊田商事被害、原野商法被害、欠陥住宅被害等の消費者問題に積極的に取り組む。日弁連消費者問題対策委員会副委員長、全国市民オンブズマン連絡会議代表幹事、宮城教育大学非常勤講師など、多方面で活躍されている。

- 参加方法 対面のみ
- 会場 名古屋外国語大学 日進キャンパス 701教室
- 定員 150名
- 対象 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学の教職課程履修者、教職員、一般市民等
- 共催 名古屋外国語大学教職センター、名古屋学芸大学地域連携推進研究機構、名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

■応募締切 10月10日(木) 17:00 ※応募者多数の場合は、先着順とさせていただきます。定員になりましたら、締切日前でも募集締切とさせていただきます。

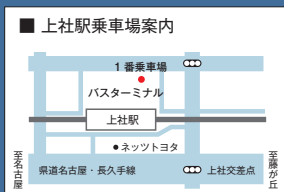
■申込方法 準備の都合がありますので、事前のお申込みをお願いいたします。申込方法については、名古屋外国語大学教職センターおよび名古屋学芸大学サービスマーケティングセンターのホームページでご確認ください。

<https://req.qubo.jp/wlac/form/20241027>



本学へのアクセスについて

当日、駐車場はありませんので公共交通機関または上社駅、赤池駅からの専用バス(無料)をご利用ください。



イベントの開催にあたって

- ◎新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催方法を変更させていただく場合があります。ご来場前に必ず当該イベントのホームページにて開催の有無をご確認ください。
- ◎会場では感染症対策のため、換気を行う場合があります。発熱・咳などの症状のある方は、参加をご遠慮ください。
- ◎本イベントにおける写真撮影や録音はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。イベント中は記録用として撮影を行います。本学ウェブサイトやその他の刊行物に、写真が掲載されることありますのでご了承ください。

問合せ先 名古屋外国語大学 教職センター <https://www.nufs.ac.jp/faculties/teaching-center/>
名古屋学芸大学 サービスマーケティングセンター <https://slc.nuas.ac.jp/index.html#gsc.tab=0>